

# 市職労退職者の会

だより  
No 44  
2018. 8. 20

〈第4回セカンドライフ・サロン〉

「存じますか」「終活」のこと

市職労退職者の会では、9月27日(木)に第4回セカンドライフ・サロンを開きます。今回は会員の皆様からのご要望が多かった「終活」をテーマに、親や自分の身体と心が元気な内に、少しずつ準備を心掛けたいことは何かを話して頂きます。

暑中お見舞い申し上げます。

今年の夏は特別に暑さが厳しいように思いますが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

夏バテの原因は、何よりも睡眠不足と食欲減退が大きな要因だそうです。お盆も過ぎて朝夕は少しずつ暑さも和らいできましたが、まだまだ真昼の暑さは厳しい様です。

「一葉知秋」と言いますが、身体の変調もちよつとした変化に年齢が現れるようです。皆様には、くれぐれもお身体に気をつけて元気にお過ごしください。

二〇一八年八月

お墓など)について詳しく伺います。  
多くの皆様の参加をお願いします。

記

2018年9月27日(木)

午前11時30分〜14時

天神芙蓉(シヨッパース向側)

「フタタ」から海側に30m

昼食代 2,365円

(飲み物は別計算です)

米丸文洋さん

(終活コンシェルジュ)



第6回歴史散歩

ビツクリ!

屋敷内に20mのレール

退職者の会は5月24日(木)に宗像市の唐津街道赤間宿で第6回歴史散歩を行いました。当日は天候もよく10名の皆さんが参加されました。

集合場所のJR福教大前駅には午前10時に赤間宿ボランティア・ガイドの皆さんが迎えに立たれ、駅前から始まる街道について説明を受けました。赤間宿は出光石油の創業者で小説「海賊と呼ばれた男」の主人公である出光三氏が生まれ育った地で、案内者のお一人も出光さんでした。



赤間宿は江戸から明治にかけて参勤交代等で繁栄した場所、宿舎ではなく商家が立ち並び交通の要衝

として栄えた土地だとの説明でした。街道沿いには当時の繁栄を物語る大きな商家屋敷が保存され、案内された屋敷内には入り口から裏側まで20mもあろうかと思われるレール跡があり、大きな屋敷を支える柱と梁には驚かされました。

昼食は「街道の駅 赤間館」で地元の主婦



たちが日替わりで提供されている昼定食を食べました。そして、午後は赤間宿の手前（福岡側）5キロにある原宿を訪ねました。街道保存地区として整備され美しい通りが500m程続いていました。平日の昼下がりで人通りがなくとても静かな雰囲気の街道でしたが、土日は観光客も多く、古民家を利用した商店や食事処も開いているそうです。

## △予告 第11回バスハイク▽

～肥前さが、

### 幕末維新博覧会と竜頭温泉～

例年晩秋に取り組んでいますバスハイクについては、バス会社からの連絡で「日帰り旅行の運行行程」が安全管理のため法令で厳しく制限されたこと。遠距離となる運行には運転手の交代が必要になり貸し切り運賃が高くなるとの事でした。そのため今回のバスハイクは市内にある西鉄観光バスに変更して運行距離を出来るだけ短くなるようにしました。

現在、佐賀市では「肥前さが、幕末維新博覧会」が開かれています。役員会ではこの開催に合わせて第11回退職者の会バスハイク

を企画します。企画としては博覧会会場にたっぷり3時間滞在し、近くの竜頭温泉で遅めの昼食と入浴を楽しんで17時過ぎには市役所前に帰る予定です。貸し切りバスは、申し込み定員が40名以上にならないと中止になります。多くの皆様の参加をお願いします。（次号で詳細を案内）

## △幕末佐賀藩の簡単な歴史▽

佐賀藩は、江戸時代から長崎奉行所の警備を幕府から任じられていたため、出島のオランダ商館から最新の西洋技術、知識を先んじて、入手できる立場にありました。

当時の佐賀藩は、名君と呼ばれる第10代藩主・鍋島直正の強いリーダーシップのもと、「ひとつづくり」（人材育成）と「モノづくり」（蘭学研究の成果として日本で初めての鉄製大砲製造や蒸気船建造など科学技術の発展）を推進しました。



藩主直正の医学分野での業績として、①藩医学校「好生館」での西洋医学教育の必修義務化、②我が国で最初の医師免許試験制度となった「医

業免札姓名簿」による開業医免許試験制度の創設、③種痘を全国で初めて我が子（淳一郎）に接種させた。また藩内の領民に藩費で普及させた、④藩士らを長崎や江戸、大阪へ積極的に西洋医学習得のため留学させた結果、多くの医人を育成（相良知安もその一人）しました。

佐賀藩は、幕府の長崎海軍伝習所に多くの藩士らを派遣し、オランダ人の指導による造船・蒸気船の建造技術を習得しました。「精錬方」（主任は佐野常民）や反射炉での大砲製造を担当した「鑄立方」（主任は本島藤太夫）らの苦難の末、鉄製大砲や蒸気船などを製造・完成しました。



嘉永3（1850）年、「築地反射炉」を建造し製砲を開始。試行錯誤を重ね、嘉永5（1852）年、日本で初めて鉄製大砲の鑄造に成功しました。その結果幕府から、多数の大砲鑄造の注文を受けた佐賀藩は、「多布施反射炉」を新設し鉄製大砲の鑄造を開始しました。そして佐賀藩が鑄造した鉄製大砲が、江戸品川のお台場に設置されます。

慶応元（1865）年、日本初の実用蒸気船「凌風丸」を、三重津造船所（現在の佐賀市川副町）で建造しました。このように当時の佐賀藩は、国内トップの技術力を保有しています。